

- ★ 発明コラム
知財情報の流通と活用の変化 2面
- ★ 発明通信社のあのこと 2・3面
- ★ 御食国から物申す～連載 第13回～ 3面
- ★ そのころ 1951年編 4面

発明

～はつめい
かわらばん～

KA

WA

RA

版

2020年(令和2年)12月1日

発行 株式会社発明通信社

<https://www.hatsumeico.jp/>

東京 千代田区内神田 1-12-2 TEL:03-5281-5511
大阪 大阪市北区東天満 2-10-14 TEL:06-6353-0324
名古屋 刈谷市相生町 2-29-1 TEL:0566-63-5588

2020 年における特許登録率 上位 30 位

	出願人	最終特許率 (%) (前置審査 審判段階含)	2018 年 特許出願件数 (参考として)	特許査定件数 (件) (前置審査 審判段階含)
1	井関農機株式会社	97.8	374	219
2	東芝エレベータ株式会社	95.3	206	205
3	リンナイ株式会社	94.1	200	159
4	株式会社 SUBARU	94.1	643	602
5	横浜ゴム株式会社	93.5	515	329
6	トヨタ紡織株式会社	93.4	564	284
7	東芝映像ソリューション株式会社	93.2	218	137
8	株式会社日立ハイテク	93.1	335	256
9	マツダ株式会社	93	907	760
10	日立建機株式会社	92.1	280	244
11	三菱電機ビルテクノサービス株式会社	92	242	231
12	シチズン時計株式会社	91.9	307	205
13	スズキ株式会社	91.8	504	383
14	ユニ・チャーム株式会社	91.5	316	151
15	京セラドキュメントソリューションズ株式会社	91.5	1754	1133
16	ブラザー工業株式会社	91.5	1115	725
17	TOYO TIRE 株式会社	90.7	369	214
18	Z ホールディングス株式会社	90.7	128	253
19	日本製鉄株式会社	90.5	1785	1081
20	三菱重工業株式会社	90.5	512	390
21	中国電力株式会社	90.3	312	243
22	JFE スチール株式会社	90.2	1009	731
23	本田技研工業株式会社	90.2	2899	1813
24	浜松ホトニクス株式会社	89.9	293	160
25	東ソー株式会社	89.6	466	190
26	株式会社 SCREEN ホールディングス	89.5	473	281
27	キャノン株式会社	89	7736	4250
28	三菱日立パワーシステムズ株式会社	88.9	337	280
29	大王製紙株式会社	88.6	318	179
30	株式会社クボタ	88.6	1026	499

・特許行政年次報告書 2020 年版の第 2 章主要統計、10. 特許登録件数上位 200 社 (2019 年) の出願・審査関連情報から編集。・最終特許率 (前置審査・審判段階含む) : 2019 年において、審査段階における特許査定件数に加え、前置審査において特許査定された件数、及び、審判合議体による拒絶査定不服審判の審理において、特許になる結論がなされた件数 (審判請求成立審決件数) を反映させたもの。・特許出願件数 : 2018 年に提出された特許の件数。・特許査定件数 (前置審査・審判段階含む) : 2019 年に審査段階及び審判段階において特許と判断された件数。・2019 年の特許査定件数 (前置審査・審判段階含む) = (2019 年の特許査定件数 (審査段階) + 2019 年の前置審査での特許査定件数 + 2019 年の審判請求成立審決件数※)
【備考】・業種分けについては、上場企業は、証券コード協議会の設定する業種に分類。非上場企業は企業情報を参照し分類。同一業種内において、企業名で五十音順に掲載。・各企業のデータは、共同出願人となっているものも含めて計上。・複数の識別番号を有する出願人は、一つに束ねて計上している。・合併・分社等の後、名義変更がなされていない場合はデータに反映されていない。・昨年から今年にかけての合併・分社等による名義変更により、昨年公表した出願件数等の数値と異なる部分がある。・2020 年 9 月データ取得。

70 周年を迎えて

代表取締役社長 山縣大輔



2021 年 1 月 31 日で発明通信社は 70 周年、創業から数えると 90 周年を迎えることになります。これは偏に、お客様から長年、多くのご指導・ご鞭撻をいただいていた賜物であります。まず、社員を代表して心より御礼申し上げます。また、この長い年月の間、弊社に関わっていただいた特許庁様をはじめとした業界関係者の方やパートナー会社様からの多大なるご支援についても心より御

礼申し上げます。そして縁あって、弊社で働いてこられた諸先輩方を含めた社員一人一人にも御礼をしたいと思います。昭和・平成・令和と時代が変わっていく中で、知的財産情報を専門に扱う会社として今もお客様に喜んでいただくための事業が出来ることを大変うれしく思います。また、今後もお客様に喜んでいただける会社にしていくよう努力してまいります。さて、このように弊社

はおかげさまで古くから事業をさせていただいておりますが、2020 年は新型コロナウイルスの影響で過去に例をみない激動の年になりました。話を進めさせていただく前に、新型コロナウイルスで亡くなられた方のご冥福、及び療養されている方の一日も早い回復をお祈りいたします。また、このような厳しい状況の中、日々医療の最前線で患者さんの治療に尽力されている医療従事者の皆

様に心からの敬意を表すとともに、一日も早く終息することを祈念し、会社や個人としても、終息に近づけるように協力していきたいと考えております。

さて、年初から騒がれ始めた新型コロナウイルスの影響で世の中での生活様式が一変しました。世界的に移動が制限され、日常生活において「ニューノーマル」や「新しい生活様式」と言われる、今までは違った生活スタイルが求められています。仕事上でも昨今の技術進歩や働き方改革等の中で徐々に普及しつつあったテレワークの推進や時差出勤・Web会議等が急遽導入・推進さ

れるようになり、今までとは違った業務の進め方に対応しなければならなくなり、皆様も試行錯誤の日々が続いているかと思ひます。

このような激動の時代の中、皆様の業務も様々な変更を実施されているかと思ひますが、そのような変更にお役に立てるサービスをひとつ紹介させていただきます。

IP DATA LAKE

弊社が長年にわたって蓄積してきた様々な知的財産情報を提供するプラットフォームとして IP DATA LAKE サービスを開始しました。弊社が保有する世界各国様々な種類の知的財産情報を PDF やテキスト・図面・経過情報等の各種フォーマットで整理、格納したうえで、お客様が平易にご利用いただけるようにしたサービスです。

紙公報時代は書誌情報やクレーム・図面等の公報の要点部分を人手で切り張りしたサマリーサービス、公報電子化以後は特許庁仕様に合わせたセレクト ROM や OCR 技術を活用した紙公報のテキスト化サービスやインターネット普及に合わせた HYPertext Web 総合サービス等、お客様からのアドバイスをもとに、世の中の技術の進歩やそれに伴うお客様ニーズの多様化高度化に沿うため

のサービス拡張を行ってまいりました。

そして現在、クラウドに代表される IT 技術のさらなる発展と「新しい生活様式」に沿った新しい働き方にあるサービスとして IP DATA LAKE を展開してまいります。インターネットの接続環境があればどこからでもサービスにアクセスでき、その中にある弊社が保有する様々な知的財産情報に容易にアクセスできるという特長を活かして、社内システムから IP DATA LAKE にあるデータを利用することで、社内システム上のデータ容量削減や運用コスト削減を図る、IP DATA LAKE にあるデータをもとにお客様独自の統計や分析を可能にする等、お客様の知財戦略立案をサポートするプラットフォームとなるよう展開していく予定です。

今後は世の中での様々なものが従来想定されていたなかった形・スピードで変革していくと思われる。弊社も 70 年以上にわたってお客様と共に培ってきた技術・情報・ノウハウ等を活用しながら、経営理念にある「仕事を通じてお客様に喜んでいただくこと」ができるように日々努力してまいりますので、今後も変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

毎年「暑い暑い」と云っていますが、今年は自宅に引きこもる生活でも、室外機が止まることないほど猛暑な夏でした。秋は虫の声と笛や太鼓の練習の音で始まるのですが、今年はコロナ禍で放生祭りは中止となりました。いつの間にか秋は深々と過ぎてゆき、間もなく冬を迎えようとしています。10月半ばに小浜市にもコロナ感染者ができました。マスク着用以外はいつもと変わらない生活であった小浜も、知っている人が感染と聞くと、みな戦々恐々と自粛生活を送られています。先端で戦つてくださっている

医療関係者、新薬開発者、会社や社員の家族を守っている事業経営者、まじめに働く皆さん、頑張っている学生や子供たちの努力が実を結び、コロナ沈静化した明るい新年を迎えたいですね。

前回の発明KAWARA版では、モノことを進め方「コト3・メンバーの意識づけ」、目的意識を共感するために、現状把握と目的を持ち、仕事の価値を上げる、そして意識づけには事前情報を同報し、自分で考えたのちに打ち合わせすること、をお話ししました。今回は、個別に個人への



御食国から物申す

馬場 淳子

第13回 モノことの進め方 その7

意識づけ、カスタマイズも必要、そのカスタマイズの一例を紹介します。

会議前に共有する情報は主に、文字や図など資料、場合によっては動画や音声データもあります。1から10までの内容を書いた資料を複数人に配った場合、ちゃんと1から10が伝わるでしょうか？時間がなくてちゃんと読んでいなかった、ということがあります。情報の種類や伝え方によって、受け手にも得意・不得意があるものです。

①数字に強く、文字からの情報を解析することが得意な人

②鳥瞰図や機能の詳細図といった、画像によってイメージをとらえるのが得意な人

③人と話すことで、自分の疑問点がわかり、そのものの理解が深まる人

①②のタイプであれば、的確な資料を渡すことで理解を深めてもらえます。論文を書きなれている人はこのタイプが多いのではないのでしょうか？

私は③タイプです。文字情報や画像を見て漠然と理解したつもりになっただけで、いざインタビューに臨むと、「前提条件は別にあったのか（資料に触れられていても注目していなかった）」「この課題を解決

するには、付随する問題があるのね（資料に書かれている項目ごとの関係性の理解が足りなかった）」というこがしばしばあるのです。

③タイプの人には、これを事前に補うためにカスタマイズが必要です。まず①②タイプと同様に資料を送ります。目を通したタイミングを見計らって、可能であれば面談、難しい場合はテレビ電話等で一対一で話します。複数人ではなく、一対一が基本です。なぜ複数人となしないのか、は第一に相手の立場を気遣うこと（プライドを傷つけない）、それに複数人で行うなら最初から全メンバーとの会議に臨めば良いと思います。顧客だけでなく、一緒に仕事をする仲間の立場を気遣うことはとても大切です。

一対一で話す機会を得たら、まず送付した資料について不備やわかりにくい表現がないかを聞きます。そこで相手から、質問や、表現訂正の指摘があれば、その内容を一緒に考えていきます。自分の意見や回答を話してしまうと、相手のモチベーションは上がりません。メンバーの一員である自覚を持つてもらうこと、一緒に問題解決を考えていくことが大切です。ので、相手の話を傾聴し、聞いた自分が理解したことを正確に相手に伝



え返します。それによって、相手は理解した内容や改善点を確認でき、つぎの『考える』ステップに進めます。相手に対して問題を描くのではなく、『相手に問題を見つけてもらうこと』が理解を深めることになります。実はこの作業をする自分自身も『新たな気づき』や『つぎの会議の進め方のヒント』を得ることもできます。

個人への意識づけカスタマイズ対応は時間と手間（根気）が要りますが、時間なり手間なりをかけた以上の成果を得ることが多いことも、私自身が経験しています。

そろそろ文字数オーバーとなります。次回



発明通信社のホームページには、過去の「発明KAWARA版」のアーカイブもあり、第2号（2009年6月）と第3号（2009年11月）で大阪営業所と名古屋営業所の当時の投稿も閲覧できるので是非あわせて読んでみてください。

創立70周年に寄せて
名誉顧問 山縣邦彦

弊社は令和3年1月31日にお陰様で創立70周年を迎えます。昭和26年に東京神田で産声を挙げて以来、人間で言えば古希にあたり誠に有難く存じますと共に、身が引き締まる思いが致します。これもひとえに、永年に亘り厳しい中にも暖かく育ててくださったお客様、そしてお取引先の皆様のご愛顧・ご指導の賜物と厚く御礼を申し上げますと共に、運命共同体と理解して懸命に頑張った先輩諸氏を始めとする社員の皆さんのお陰と感謝をしております。

戦後の我が国における特許行政、なかなか情報報の黎明期にあつて、初代社長の山縣昇輔が当時の公報の値決めをする際にお客様のお知恵を拝借したり、又いろいろと模索をしながら淡々と歩んできたことを思うと感慨無量です。

時代が目まぐるしく様変わりをし、種々の価値観が錯綜するなかにあつて、知的財産権の重要性は益々増加すると思われそれに繋がる情報も避けて通れなくなるなか、少しでもお客様に喜んでいただけますよう、社長以下懸命の努力をすると共に、厳しい中にも暖かさのある会社でありたいと念ずる次第です。

発明通信社へ入社して早30年が過ぎた。知財情報紙を主体としていた時代から現在のデータを主体とした時代への変化を営業という仕事を通して振り返り、これから知財情報がどのように扱われていくのかを考えてみた。

紙の公報

入社当時は、お客様からの電話やFAXによる複写依頼がほとんどで、公報番号をお知らせいただき、番号順に並んだ公報の原本から該当公報を抜き出し、複写後また原本に戻すという作業の繰り返しであった。ただ、SDIサービスの方は、既にオフィスコンピュータが導入されており、予め指定されたIPCや出願人での該当公報の特定、公報プリントアウトが可能であったと

記憶している。唯一オンラインで検索サービスしていた「パトリス」は当時、電話回線を使ったサービスであった。使用方法によつては、予想をはかるに上回る費用がかかってしまうこともあつて、使う人や使い方が限られていた印象が強い。

電子公報の発行

特許公報の提供方法や活用が大きく様変わりしたのが、平成5年に始まった電子公報（CD-ROM公報）の発行である。CDドライブを用意し、検索ソフトをインストールすれば、見たい公報が手元で直ぐに出力されるのは革新的であった。しかし、画面上で公報を査読することが難しく、手めくりの習慣やディスプレイの問題から、ほとんどのユーザーがプリントアウトして読む、というスタイルを取っていた知財部門においては、紙を減らす取り組みを始めたい企業の中で、外部からの紙の量は減らせても逆に内部での使用量が増えた時代で

もあつた。

公報データの蓄積と遡及

PC環境において扱える記憶媒体の容量が大きくなつてくると、発行毎のSDI処理だけではなく、HDD等に蓄積し調査ツールとしても使われるようになった。その便利さから紙公報の時代のもので同形式のデータが求められだしたことから、弊社ではいち早く公報をスキャニングし、OCRに加えてが修正を加えたデータを「紙ROM」としてリリース、多くのお客様にご購入をいただき、大いに役立ったとお声をいただいた。

インターネットの発展

インターネット技術が発展すると、検索のためのデータを各会社で保持する必要がなくなり、外部データベースの利用が拡大、多くのベンダーがサービスを始めたことで、使い勝手やコストで選べる時代に突入した。弊社

でも「HYPATシリーズ」をリリースし、使いやすいことや豊富な機能、手厚いサポート体制により、現在も多くのお客様にご利用いただいている。

これからの知財情報の流通と活用

既に検索ツールにおいては、データを購入することもなく、必要な時に必要な情報だけ査読でき、即座に分析することが可能になった。さらにはAIによる査読が行われるなど、特許調査において人が介入することはなくなっていくと思われる。また事務管理ツールにおいても、他の知財システムとのデータ連携やロボットソフトによる自動処理により、こちらの人の介入が必要なくなるころまで来ている。近い将来には、機械が提案してくれた有益（必要）な情報を見て、人は会社の発展のためにそれをどう生かすのかを考えればいいだけの時代になるのではないかと推考される。弊社はこれまで、それぞれの時代に応じたお客様のニーズに合わせて知財情報を提供してきた。今後は知財システムへのデータ提供を主にしたサービス「IP DATA LAKE」を主軸にお客様に見えるところ、見えないところでもこれからも貢献していけると確信している。

【東京】

発明通信社の本社機構が、内神田の今のオフィスに移転したのは、約20年前の2000年10月のことでした。30年以上前の私の入社当時は、今と同じ神田界隈でも北口から1分の神田鍛冶町というところにありました。JR神田駅から徒歩1分という好立地で、飲み屋街を抜けたオフィスビルが連なつた一角に4階建ての下3フロアーを弊社が借りて居を構えており、半径50メートル以内の他の建物にも営業部と調査部が分かれて入っていました。今の場所から徒歩で5分程なので時折覗いてみると、初々しかった若かりし頃が脳裏をかすめます。

発明通信社の本社オフィス移転の契機が何だったのか、私は知る立場になかったので不明ですが、弊社サービスの業容変革とともに、点在する本社機能を集約し生産性を上げることを狙ったものだと思います。おかげで、ビルを渡り歩かずには済むし、エレベータは付いたし、自社でセミナーはできるようになったしで、引越し効果はかな

り出ているのだと思います。やがて、複写業務と公報仕分けを担っていた浦和事業所は閉鎖され、これらの業務も東京本社に集約され今に至っています。この浦和事業所の本社統合は、特許情報業界の変化が影響しています。特許公報の電子化、インターネット特許検索の普及とともに、かつて弊社の屋台骨を支えていた膨大な紙公報の書庫が不要になったのです。そして、今や本社の1フロアーには大型のHDDのラックが何本も立ち並び、そこにはぎっしりとストレージが詰まっています。浦和事業所で見られた書庫の中を行き交う原本出納スタッフ達の見る影はなく、誰もいないサーバーームは、乾いた電子音が鳴り響き、空調のための大型扇風機がうるさく唸っています。まさに、時代を感じずにはいられませんが、数年後には、このサーバーームもひっそりとモノニターが数台ボタンと置かれただけの一室に置き換わっているのかもしれない。

今や、特許情報業界もIT革命のうねりの中にあります。AI・ビッグデータ・RPA、次から次へとやってくる革新的技術を今後どう取り入れ、困難を克服していくか？・・・発明通信社の挑戦は続きます。

作業場の説明をしますと、書類を1山区切りで作業をしていましたので壁側すべてにスチールラックを設置して書類を置いていました。当時の名古屋営業所は、3階でエレベーターもないためにお客様にお届けする際は、3階から階段を利用して運んでいました。3階から1階までのステップを約15kgの箱を、毎日上げ下ろしをしていましたので足腰を鍛えることができました。大阪営業所、名古屋営業所とも移転しており、当時の記憶が薄れていますが今では考えられない環境でした。「新しい生活様式」には、ファーストブレイス（自宅）、セカンドブレイス（職場）にプラスされて、サードブレイス（プライベート）や仕事から切り離れた場所も重要視されていますが、そんな流れの中でも、職場（セカンドブレイス）は働く仲間との共有場所は変わらないので、ストレスを減らし、働きやすい環境を目指して、お客様も働くみなさんも集いが楽しめる場所を提供できればいいなあと思っております。古い人間ですね・・・

発明通信社のホームページには、過去の「発明KAWARA版」のアーカイブもあり、第2号（2009年6月）と第3号（2009年11月）で大阪営業所と名古屋営業所の当時の投稿も閲覧できるので是非あわせて読んでみてください。

目次

目次

目次

目次

目次

目次

目次

目次

何度も繰り返し恐縮ですが、発明通信社は2021年に創立70周年を迎えます。改めて、これもひとえに皆様からの厚いご支援とご愛顧の賜物と心から感謝申し上げます。70年という長い年

月を皆様のお陰で走り続けることが出来ましたが、70年前がどのような年だったか明確に回想、想像できる方はなかなかいらっしゃらないかと思ひます。そこでここでは、当社が生まれた1951



年がどのような年であったかを振り返り、その時間の経過を感じて参ります。

世界との関係修復

1951年 昭和26年の日本は、吉田茂内閣の

もと第二次世界大戦から立ち直ろうとしていました。吉田茂総理は予算会議中に質疑応答をしていた相手の議員に悪態をついてしまったことがきっかけで衆議院解散に追い込まれた「バカヤロー解

散」で知られる、日本で唯一5回内閣総理大臣に任命されている人物です。その吉田総理はこの年、サンフランシスコ講和会議で対日講和条約、日米安全保障条約に調印し、日本独立の回復、米軍の日本駐留などを定めました。また、各国政府に対し労働条件の改善や社会福祉向上に関する勧告や指導を行う国際労働機関（ILO）、戦争を繰り返さぬよう教育、科学、文化、コミュニケーションを通じて国際理解や国際協力を推進、人々の平和と人類の福祉を促進する国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）へ加盟するなど再び世界と肩を並べるべく準備をしていました。

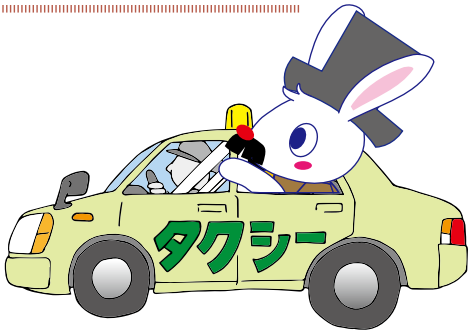
第二次世界大戦後GHQによって官民間わず運航が停止されていた日本国籍の航空機の運航停止期間が解除されたことにより、日本航空が設立されたのもこの年のことで、第1号機の「もく星号」が東京・大阪・福岡間に就航、日本国内外の距離を縮めました。



悲惨な事故を教訓に

一方、国内では死者106名、負傷者92名にも及ぶ被害が出た、国鉄戦後五重大事故にも数えられる「桜木町事故」が発生しています。東海道本線（現・京浜東北線・根岸線）の桜木町駅構内で発生した列車火災事故で、工事作業を誤り垂れ下がった架線に列車が接触し、ショートしますが、非常時にドアを自力で開ける方法を知らなかったこと、また設計上等の問題で窓からの脱出、隣の車両への移動が出来なかったことから、乗客が炎上する車両に閉じ込められてしまいました。この後、自動扉付きの客車には非常ドアコックの設置と表示が義務化され、緊急時に乗客がドアを開けられるよう法令が改正されています。

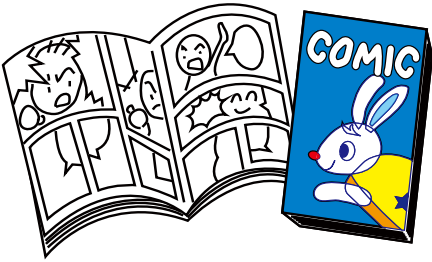
また、この年から警視庁がゴム風船を使ったアルコール検知器での飲酒運転取り締まりを開始。1960年には道路交通法が整備され、呼気1リットル中のアルコール濃度が0.25ミリグラム以上の状態で運転してはいけなと定められました。1970年には罰則も規定され、呼気1リットル中0.15ミリグラム以上0.25ミリグラム未満で酒気帯び運転、車両提供者、同乗者も処罰対象になるなど次第に厳罰化しています。



「初めて」だらけ

芸能・スポーツ面では「初」という言葉が目立ちます。まず、第1回紅白歌合戦が放送されました。1月3日お正月のラジオ番組で、出場組数は紅組白組それぞれ7組、放送時間は20、21時の1時間のみ。大晦日にテレビ中継されるようになったのはそれから2年後、第4回のことでした。また、日本で初めて国産カラーフィルムで撮影された総天然色映画「カルメン故郷に帰る」が公開され、ベネチア国際映画祭で「羅生門」が日本映画初のグランプリを受賞しています。外型反転カラーフィルムを用いて撮影された「カルメン故郷に帰る」はまずカラーで撮影した後、モノクロフィルムでも撮影するという手間が掛かっており、大量の照明確保、カラー撮影用のヘアメイク開発等、相当の苦労があったそうです。（世界初の映画につきましては発明KAWARA版第23号で特

集しております。是非ご覧ください！）日本で初めてLPレコードが発売されたのも1951年で、収録曲はベートーヴェン「交響曲第9番」でした。現在、実物が国立科学博物館の重要科学技術資料（未来技術遺産）に登録されています。その他、手塚治虫の「鉄腕アトム」、藤子不二雄デビュー作「天使の玉ちゃん」、長谷川町子の「サザエさん」の連載もこの年に開始されました。



スポーツ界では、第1回プロ野球オールスターゲームと日本初のプロレスが開催されています。日本では、力道山がデビューした1951年を「プロレス元年」と定めており、プロレスの興行が根付いたのは力道山が53年に日本プロレスを旗揚げして以降です。ここから一気に日本中でプロレス熱が高まった訳は、戦後まもなく多くの国民に反米感情があり、力道山が外国人レスラーに空手チョップをする姿が心

を掴んだからと分析されています。また、ボストンマラソンに日本人選手が初参加し、アメリカの新聞で「原爆ボーイ」と呼ばれた広島出身の田中茂樹選手が優勝しました。

紙幣に知財権の父

この年、新たに発行された50円紙幣には日本銀行総裁、大蔵大臣、総理大臣、そして初代特許庁長官を歴任した高橋是清の肖像が描かれています。特許庁にある銅像を見かけた方も多いのではないのでしょうか？高橋是清は、1874年に通訳として付いていたアメリカ人の博士から「日本には著作を保護する版權はあるが、発明・商標を保護する規定がない」と言われ、輸入品を真似たり、商標を盗用して作った模造品を舶来品と偽って販売したりと多くの被害が出ていた当時の日本の状況を深刻に受け止めます。ここから工業所有権の重要性を認識し、制度制定に尽力しました。実はこの50円紙幣、1955年に50円硬貨が登場したために発行期間はわずか7年間で流通数も少なく、現在の古銭としての価値は非常に高くなっているそうです。心当たりのある方はぜひ、ご自宅を探されてみてはいかがでしょうか？

振り返ってみると1951年には「前進」に繋がるトピックが多く、

その根底にある力強さを感じられました。その力を借りて、事業を開始することが出来たのだと感慨深いものです。当社が長年携わってきた知財業界はこれまで、情報の電子化、電話回線を使用したオンライン検索、公報の電子化、インターネット特許検索データベース、分析／AIツール、システムのクラウド化と進化、多様化してきました。これからどのような時代になるのか誰にもわかりませんが、どのような未来でも、発明通信社は「お客様に喜んでいただける」サービスを提供することにより、「世界最高の知的財産立国」「高度で専門性の高い知的財産活動」の一助となる「知財総合サービス企業」を目指して、社員一同、邁進していく所存です。今後とも倍旧のご支援ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

